

## 西濃農林事務所の普及活動状況 令和4年8月31日現在

### 今月の重点活動

#### ■GAP んふ清流GAP推進に関する意見交換会の開催

8月18日、西濃総合庁舎において、んふ清流GAP推進センター、JAにしみの、農林事務所が集まり、んふ清流GAP推進に関する意見交換を行った。

初めにんふ清流GAP推進センターから、農場改善のポイントとして、農場評価に当たっての留意点について情報提供があった。次に、農林事務所農業普及課からんふ清流GAPの取り組み状況を説明し、生産組織への推進方法について検討を行った。生産組織の中には、GAP認証に意欲的な生産者もいるが、生産組織として生産から販売までの取り組みを進めるには、いっそうの支援が必要であるとも意見もでた。今年度、んふ清流GAPの認証を目指している生産者は6件あり、農林事務所では、認証取得に向け指導を継続するとともに、GAP取り組み拡大を進めていく。



【意見交換会の様子】

### 安心で身近な「西濃の食」づくり

#### ■水稲 県内で一番早い水稲「あきたこまち」の収穫開始

海津市は県内で一番早く水稲の収穫が始まるが、今年は4月10日に田植をした「あきたこまち」が、8月8日から収穫開始となった。

今期作は田植え後の気温が低い日があり、生育が停滞した時期があったものの、その後の気温は平年並み以上で推移し、昨年よりも2日早い収穫開始となった。なお、今年の「あきたこまち」は、例年と同様に品質は良好である。

8月12日には、「あきたこまち」の初出荷式がJA全農岐阜とJAにしみのの共催により、JAにしみの海津カントリーエレベータで行われた。関係者によるテープカットやトラックによる初出荷が行われ、8月中旬には県内各地の小売店に並ぶ予定となっている。米の販売が厳しい近年の情勢ではあるが、消費宣伝により、少しでも有利な販売と生産者の手取り向上に向けた取り組みが行われる。

管内では、これから10月中旬のハツシモまで水稲の収穫が続く。農林事務所では、病害虫防除や適期収穫の励行など、高品質な水稲収穫に向けて引き続き支援をしていく。



【「あきたこまち」初出荷式】

### 西濃の農畜水産物のブランド展開

#### ■加工業務用キャベツ 苗生産ほ場巡回

8月17日、JAにしみのTACと農林事務所、キャベツ苗を自家育苗しているほ場を巡回した。育苗方法は生産者により様々で、給水方法や育成場所など各自の工夫が見られた。

苗は全体的に徒長気味であったが、生育は順調で、8月下旬から順次定植開始となる。しかしながら、今年の8月は降雨が多いことから、本ぼの準備が計画どおり進まず、予定より定植作業が遅れる見通しとなっている。なお、購入苗の配布は8月17日から始まっており、キャベツの植え付け準備が着々と進められている。

農林事務所では、今後、JAにしみのと連携し、単収向上に向けた実証ほを設置し、支援を行う。



【播種後3週間のセルトレイ苗】

### ■冬春トマト 新たな資材による土壌還元消毒方法の試験を開始

トマトの土壌病害（青枯病、かいよう病、ネコブセンチュウ等）対策として、土壌消毒は非常に重要な技術である。現在、産地では太陽熱消毒を中心に糖蜜や珪藻土による還元消毒およびダズメット微粒剤消毒が行われている。

還元消毒や化学農薬による土壌消毒では、10a 当たりの経費が8～10万円程かかるため、珪藻土より安価で、同程度効果が期待できる廃白土（食用油製造過程で発生する土）による還元消毒を農業技術センターの協力のもと現地試験を行っている。

農林事務所では、今後、処理後の土壌を回収し、青枯病菌の調査を行い、効果を確認する予定である。なお、効果が確認され、資材が商品化ができ、土壌消毒のコスト低減が明らかになれば、更なる普及を進めていくこととしている。



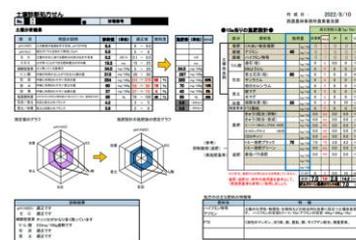
【処理後の様子】

### ■きゅうり 土壌診断説明会・栽培研究会開催

8月2日に、JAにしみの海津中支店で海津胡瓜部会土壌診断説明会・研究会が開催された。

農林事務所からは、7月に青年部協力のもと実施した土壌診断の結果及び施肥設計について説明を行った。全ほ場においてリン酸が過剰となっており、実際に葉にリン酸過剰の症状が見られるほ場も散見される。リン酸を抑えた施肥設計に見直す生産者もあり、継続して土壌の改善に取り組む必要性を呼びかけた。

また、農薬一覧表等を配布するとともに、きゅうりで問題となっているウイルスを媒介するアザミウマ類やコナジラミ類の侵入防止対策について、チェックシートを配布し、対策の啓発を行った。



【処方箋のイメージ】

### ■なす 役員会（苗研究会）の開催

8月22日、JAにしみの海津中支店で海津なす部会の苗研究会が開催された。なすは連作により土壌病害や連作障害が発生しやすくなるが、毎年ほ場の位置を変えることができる生産者は少ないため、半身萎凋病や青枯病が問題となっている。

農林事務所からは、青枯病対策についての情報提供を行った。現在、土壌病害が発生しているほ場では、土壌消毒の効果を上げる取り組みも始めており、農林事務所では引き続き夏秋なす栽培を支援していく。



【青枯れ病診断の様子】

### ■花き 切り花フランネルフラワーの栽培支援

西濃管内では、県育成フランネルフラワーの栽培を、切り花で3戸、鉢花で3戸が取り組まれている。農林事務所では8月3日、切り花フランネルフラワーの生産者を対象にほ場巡回を行った。

6月から8月までは生育障害が出やすく、昨年はダニや根痛み等が発生した。今年も一部でダニの発生があったため、初期防除を呼び掛けた。また、予定時期に出荷ができないとの相談もあり、開花促進剤の利用を勧め、使用方法について情報提供を行った。8月中に2回使用することで、10月の開花、収穫を見込んでいる。

今年は試作を行う生産者もあり、既に作業遅れが見られるため、農林事務所では、農業技術センターとも連携し、重点的に支援を行っていく。



【生育状況の様子】